



## 堀内正和 「芸術という作用—堀内正和の抽象」



“平面N-A” 1963, iron, 5x77.5x33cm ©Masakazu Horiuti, Courtesy of Yumiko Chiba Associates.

会期：2023年5月12日（金） - 6月8日（木）

会場：Yumiko Chiba Associates

〒160-0032 東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ 3F

営業時間: 12:00-19:00 定休日: 日、月、祝日

このたび、ユミコチバアソシエイツでは、日本の抽象彫刻という概念の成立に寄与し、近代と現代の彫刻史をつなぐ重要な作家である堀内正和（1911-2001）の個展を開催いたします。

1920年代から彫刻家として発表を始め、終戦後は、芸術を精神に直接働きかける道具としたアール・コンクレ（具体美術）を手掛かりに一貫して抽象の道を進み、形の原理を見つめるなかで幾何の形態学を追求しました。堀内はアトリエのない彫刻家として知られ、形を試行錯誤するマケットの制作こそ自らの芸術だと公言しました。根幹にあったのは、戦時下に深めた抽象美術と言語学に依拠する、芸術とは物ではなく意識の作用であるという理念です。美という観念を揺るぎない実在にしようとする彫刻のパラドクス——堀内はこの逆説を引き寄せ、文学や哲学を読みこんだ形の知的遊戯のなかに彫刻の在処を見出しました。その思索の軌跡は、戦後日本美術史に独自の地歩を築いています。

本展では堀内の制作過程や思考を窺える資料を交え、40年代の具象彫刻から抽象を追求し始めた50年代、幾何学形体に依拠し透明な思考の実態化を追求した70年代から90年代の彫刻とデッサンを紹介します。

堀内正和の個展をぜひご覧ください。

本展開催にあたり、神奈川県立近代美術館学芸員菊川亜騎氏に多大なるご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。

### ■関連情報

#### 【書籍刊行】（予定）

『芸術という作用—堀内正和の抽象』

著者：菊川 亜騎(神奈川県立近代美術館 学芸員)

発行予定日：令和5年7月中

発行：Yumiko Chiba Associates



## ■アーティストプロフィール

## 堀内正和 (ほりうちまさかず)

- 1911 3月27日、父・堀内潔、母・寿賀の次男として京都市に生まれる。
- 1926 東京市雑司ヶ谷に転居。
- 1927 村山知義の著書から影響を受け、木と針金と白ペンキを用いて構成派風の作品を制作。
- 1928 東京高等工芸学校(現・千葉大学工学部)工芸彫刻部に入学。
- 1929 第16回二科展に《首》で初入選。東京高等工芸学校を中退し、番楽技塾で藤川勇造に師事する。
- 1933 胸部疾患のため制作を一時中断、療養する。
- 1936 第23回二科展ではじめて抽象彫刻を出品。
- 1937 7月、牧田淳子と結婚。
- 1938 アテネ・フランスでフランス語、ラテン語他を学ぶ(1944年まで)。
- 1940 この年から1945年まで作品発表を中断。翌年から1946年頃まで児山敬一に哲学、芸術、宗教を学ぶ。
- 1946 第10回新制作派協会展に《淳子の首》を出品。
- 1947 第32回二科展に出品して復帰、同会彫刻部会員となる(1966年退会)。
- 1948 一時、家族と離れて寛光寺(横浜市中区桜木町)に寄寓、《行香》などを制作。
- 1950 京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)講師となる(1958年より教授、1974年に退任)。
- 1951 家族で渋谷区稲田(現・渋谷区神宮前)に転居。
- 1953 大和マネキンの依頼で《かげの美女たち(マネキン)》シリーズの制作を始める。  
「抽象と幻想 非写実絵画をどう理解するか」展(東京国立近代美術館)に出品。
- 1954 この年から鉄溶接彫刻による幾何学形態の構成に取り組む。
- 1956 「世界・今日美術」展(東京・日本橋高島屋)
- 1957 第4回サンパウロ・ビエンナーレに出品。1959昭和34年この頃から円筒をもとにした彫刻を始める。
- 1963 神奈川県立近代美術館にて「堀内正和彫刻展」開催。《海の風》で第6回高村光太郎賞。
- 1965 この頃から穴から覗き見る仕掛けをもった「KOZON 彫刻」を始める。
- 1967 「グッゲンハイム国際美術展」(ニューヨーク、グッゲンハイム美術館)に出品。  
秋山画廊(東京)で個展。
- 1968 「Tricks and Vision」展 盗まれた眼 東京画廊(東京)に出品。  
「蛍光菊(Fluorescent Chrysanthemum-Contemporary Art of Japan)」  
(ロンドン、I.C.A、11月/カナダ、バンクーバー・アート・ギャラリー、翌年2月)に出品。
- 1969 第1回現代国際彫刻展(箱根彫刻の森美術館)で《立方体の二等分》が大賞。
- 1970 第2回神戸須磨離宮公園現代彫刻展で《円筒をななめに通り抜けるもう一つの円筒》が神奈川県立近代美術館賞。  
「万国博美術展・調和の発見」(大阪、万国博美術館)に出品。
- 1971 第2回インド・トリエンナーレに出品。第4回現代日本彫刻展(宇部市)で《ななめの円錐をななめに通り抜けるもう一つの円筒》が神奈川県立近代美術館賞。
- 1973 ギン画廊(東京)で「堀内正和と大真面目小物展」開催。
- 1977 現代彫刻センター(東京・大阪)で個展。これに合わせて『HORIUTI 堀内正和作品集』が刊行される。
- 1978 神奈川県民ギャラリーで「堀内正和展」開催。  
『アート・テクニク・ナウ10 堀内正和の彫刻』(河出書房新社)刊行(1995年に増補新版)。
- 1980 東京国立近代美術館で「日本の抽象美術のパイオニアー山口長男・堀内正和展」開催。
- 1981 「日本近代彫刻の展開」展(神奈川県立近代美術館)に出品。
- 1985 碧南市文化会館で「堀内正和彫刻展」開催。
- 1986 渋谷区立松濤美術館で「堀内正和展」開催。現代彫刻センター(東京・大阪)、ギャラリー・TOM(東京)で個展。
- 1987 第28回毎日芸術賞を受賞。1988昭和63年『札幌芸術の森叢書 現代彫刻集IV 堀内正和』(財団法人札幌芸術の森)出版。
- 1989 「幻の山村コレクション展」(兵庫県立近代美術館)に出品。
- 1990 評論、エッセイをまとめた『坐忘録』(美術出版社)出版。
- 1991 米子市美術館で「辻晋堂・八木一夫・堀内正和展」開催。
- 1996 『ユーレーカ 堀内正和作品資料集成』(美術出版社)出版。
- 2001 4月13日、肺炎のため死去。
- 2002 府中市美術館市民ギャラリーで「彫刻家佐藤忠良・堀内正和展」開催。  
「未完の世紀：20世紀美術がのこすもの」(東京国立近代美術館リニューアル記念展)に出品。
- 2003 「彫刻家堀内正和の世界展」開催、神奈川県立近代美術館、京都国立近代美術館、茨城県近代美術館、札幌芸術の森美術館に巡回。
- 2015-2016平成28年和書・洋書あわせて約4,000冊の旧蔵書が神奈川県立近代美術館の美術図書室に「堀内正和文庫」として寄贈される。
- 2017 彫刻作品、紙彫刻あわせて118点が神奈川県立近代美術館に寄贈される。
- 2018 神奈川県立近代美術館で「堀内正和展 おもしろ楽しい心と形」開催。
- 2023 ユミコチバアソシエイツ(東京)で個展。

【本展に関するお問合せ】 ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ

〒106-0032 東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ 3F

[Tel] 03-6276-6731 [e-mail] info@ycassociates.co.jp [website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日